

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 6 月 15 日

事業所名 児童サポートハウスユニコーン

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	○				
	2	職員の配置数は適切である	○				・児発終了時間と放デイ事業所に戻る時間帯配 慮不足とならないように人員配置に気を付ける。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化 の配慮が適切になされている		○		配慮が必要な子には 手助けをする	・駐車場段差あり。玄関も階段3段ある為、転倒 しない様に気を付ける。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目 標設定と振り返り)に、広く職員が参画して いる			○		・業務改善は行ってきたが、PDCAを意識しての 時間を職員全員で行っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりア ンケート調査を実施して保護者等の意向等 を把握し、業務改善につなげている	○				
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している		○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている			○		・開設初年度の為、第三者評価を行っていなかつ たので、今年度は実施する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保している		○			・受講回数が少なかった。今後は受講回数を増 やして資質向上に努めていく。
適切な支 援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者 のニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している		○			・アセスメントを充分に取れない場合もあった為、 今後は時間確保に努める。(時間の工夫)
	10	子どもの適応行動の状況を把握するため に、標準化されたアセスメントツールを使用 している		○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行ってい る		○		・アイデアノートを 作成する	・担当制で作成後に皆で修正していたが、立案 時よりチームで行う。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫して いる		○			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している		○			・「課題をきめ細かに設定」する。という点を配慮 し支援する。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活 動を適宜組み合わせ放課後等デイサービ ス計画を作成している	○				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担に ついて確認している		○			・支援内容・役割分担などの細かい内容を皆で 共有する時間を確保する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを し、その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している		○			・業務日誌を記入する際に共有していたが、職員 自ら振り返り、気づいた点を発言できるような時 間を十分に確保する。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげている		○			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイ サービス計画の見直しの必要性を判断して いる	○				
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み 合わせて支援を行っている			○		・ガイドラインを職員全員で学び直す。

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		○			・主に児発管のみの参加だったので、今後は直接支援している職員も参加する。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○				
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている					
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○				
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している					
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○			・児発管が専門機関からの助言を受け共有をしていたが、今後は研修の機会を設ける。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○		・コロナ禍の為、計画できていなかったため、今後は機会を設ける。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している			○		・今後は積極的に情報収集を行い、参加出来るようにする。
保護者への説明責任等	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			○		・ペアレントトレーニングの研修を受講して支援を行っている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○		・今後、保護者会開催を企画する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				
	35	個人情報に十分注意している	○				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○		・コロナ禍の為、計画できなかった。今後は地域に開かれた事業所を目指し運営していく。

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○			・事業所内での避難訓練や感染症対策なども行っていたが、マニュアルに関しては職員間で再度確認し、保護者と相互理解する時間を設ける。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○				
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている			○		・虐待防止マニュアルの確認などは行っていたが、今後は研修を受講し適切な対応を行う。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○				
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している			○		・ヒヤリハットが起きた際は、共有していたが、今後は事例集を作成して再発防止に努める。